

都留文科大学報

第116号

2011年
7月6日(水)

編集 都留文科大学広報委員会

〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1 都留文科大学内

☎ 0554-43-4341 URL: <http://www.tsuru.ac.jp/>



学長表彰の様子



平成22年度学位記授与式を終えて



第42回 つる子どもまつり



名誉教授称号授与

都留文科大学入学式 2

学長より新入生を迎える言葉

新入生のことば 社会学科 渡邊美香

特集 東日本大震災と文大 4

学長より 加藤祐三

現地レポート 高田 研教授

東日本大震災発生時の本学の様子 相川 泰総務課長

被災学生への各種サポート一覧 重原達也学生課長

新教員紹介 文大に着任するにあたって 10

初等教育学科 平 和香子専任講師

国文学科 長瀬由美准教授

英文学科 ハイミッシュ・ギリズ准教授

社会学科 黒崎 剛准教授

比較文化学科 水野光朗准教授

初等教育学科 酒巻洋一特任教授

英文学科 松土 清特任教授

学外研究報告 17

初等教育学科 坂田有紀子教授

比較文化学科 分田順子教授

惜別 国文学科 樋渡登先生を偲ぶ 19

国文学科 高橋宏幸教授

昨年度の就職状況を振り返る 20

就職委員会委員長 寺川宏之教授

「学生による授業アンケート」の結果から 22

FD委員会委員長 福田誠治教授

講演会だより 24

国文学科講演会

文大だより 25

図書館だより

つる子どもまつり

学長表彰制度による表彰

模擬面接試験体験会

人事異動

お詫びと訂正

オープンキャンパス／本 ぶんだい堂

編集後記…平林祐子 28



都留文科大学入学式

今年の入学者は 844 名

4月5日（火）に、都の杜うぐいすホールにおいて、入学式が行われました。例年では、学科別に午前と午後の2部制で行っていましたが、今年度は東日本大震災の影響もあり、1部制として午後に執り行いました。

入学者の内訳としては、初等教育学科 222 名、国文学科 135 名、英文学科 136 名、社会科学現代社会専攻 107 名、同学科環境・コミュニティ創造専攻 73 名、比較文化学科 119 名、文学専攻科 9 名、大学院文学研究科 18 名、学部3年次編入 25 名であり、学部、専攻科及び大学院等 844 名の入学が許可されました。

会場となった大ホールは入学者でほぼ満員、その式典の様子を小ホールのスクリーンで保護

者が見守る中、冒頭のあいさつを公立大学法人都留文科大学の西室陽一理事長が行いました。続いて加藤祐三学長が新入生を迎える言葉、設立団体の都留市からは小林義光市長により祝辞が述べられました。また、入学生代表として、渡邊美香さん（社会学科1年生）が入学の言葉を読み上げ、本学の学生としての自覚と誇りを持ち、新たな一步を踏み出すことを誓いました。式の最後には、本学管弦楽団吉田悟氏の指揮により、本学学生歌の「花のかげ」を全員で合唱し、厳粛なうちに式を終了しました。



入学式の様子



別会場で入学式の模様を見る父兄

新入生のことば

社会学科 渡邊美香

うららかな春の陽射しに誘われて、桜の蕾もほころび始めるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えられたことを、大変嬉しく思います。これも、母校の先生

方・家族・友人たちの支えや、地域の方々の温かい眼差しのおかげです。その思いへの感謝を心に留め、大学での生活を実りある素晴らしいものにすべく、日々精進していきたいと思っています。

私たちの生きている現代の社会は、情報化やグローバル化が進み、豊かで便利になったと言われます。しかし、その一方で、人間関係が希薄になり、コミュニケーション能力の低下も懸念されています。長期的な不況により、若者の雇用も非常に厳しい状況にあると言われ、私たちの未来には、立ち向かうべき課題が山積しています。

さらに、この三月、東日本は信じられないほどの大震災に見舞われました。その深い悲しみと辛さを、私たち一人一人が自らの思いとして受けとめ、正面から向かうべき時なのだと思います。

このような混沌とした時代だからこそ、何より

も、人として成長し、互いに支え合うことが、より一層大切になると思います。そのために、私たちは、学ぶことを怠らず、人と関わる中で経験を重ね、失敗を恐れずに挑戦していく勇氣を持つ必要があります。社会の変化にしなやかに対応できる知識と教養を身につけて、現代社会が直面する問題を幅広い視野で捉え、解決していく力を培っていかねばならないと思います。

都留文科大学は全国各地から学生が集まり、地域の方々との交流も盛んです。この恵まれた学習環境のもと、多くの人との交流によって、未知の自分を発見し、学びを深めるとともに、豊かな人間性を育みたいと思います。また、部活動・サークル活動などを通して、互いに高め合っていきたいです。そして、さまざまな形で、社会に貢献できる存在へと成長していきたいと思っています。

私たちは今、多くの方々に支えられ、熱意あふれる先生方のもとで、共に学ぶ機会を与えていただきました。このように学ぶことのできる幸せを改めて噛み締め、都留文科大学の学生としての自覚と誇りを持って、新たな一步を踏み出したいと思っています。未来を見据えた高い志を抱いて、一日一日を大切に過ごしていくことを決意し、新入生のことばといたします。



式 辞

都留文科大学学長 加藤祐三

みなさんの入学を心からお祝いします。

みなさんは世界をゆるがす大震災後、初めての入学生となりました。ご家族の感慨はひとしおと拝察します。都留市長ほかご来賓の方々、教職員や先輩たちも、格別の思いで、みなさんをお迎えしています。この入学式は、私たちみなさんの新たな出発点となるでしょう。

3月11日午後、未曾有の激震と津波が東日本一帯を襲い、人々が営々と築きあげてきた町と生活を一瞬のうちに破壊しました。多くの人命が失われました。本学でも被災地出身の学生がかなりおり、そのうち一人が、いまなお安否不明です。

福島第一原発の事故は、世界が固唾をのんで見守るなか、いまだ収束の時期も定かではありません。被災地の人々の心情は察するに余りあります。

みなさんの活躍する時代は、今回の大震災に直面して価値観も社会システムも大きく変わるでしょう。その姿はまだ見えていません。いつの時代においても未来は不透明で見えにくいものですが、見えないものを明らかにしたいという探究心や創造力が、人間には備わっています。こうして我々は文学・芸術・思想を生みだし、大海原へ漕ぎだ

し、果てしない宇宙へと世界を拡げ、人文社会科学や科学技術を創造してきました。

新しい価値観や社会システムの推進には、若者の柔軟な発想と力が不可欠です。人間は一生をかけて成長しますが、青春時代に得たものの影響は甚大です。

これからの学生生活において、教師や書物を通じて勉学に励む時、部活やボランティアで絆（きずな）を深める時、そして遠く親元を離れ大人として社会とかかわる時、自分の内面から湧いてくる考えや感覚を信じ、大切にしてほしい。それがたとえ漠然としていても、これこそが一人一人にとって個性的で本源的なもののだからです。

…（中略）…

自分を前向きに転換する心構えについて、3つの示唆を呈しましょう。

第一が「アシコシ ツカエ」です。「直立二足歩行」は人類だけが得た能力であり、重たい脳と広い視野を獲得しました。それを支えるためのアシコシが大切です。ともすると軽視しがちですが、「活動と休息のリズム」を身につけてください。身体を動かせば心も活発に動きます。

第二が「ツキイチ コテン」です。月に一度は意識的に古典に触れてほしい。長い歳月を経て感動を与えるものを古



学 長 加藤祐三

典と定義すれば、古典とは文学、芸術、思想、あるいは城や石垣、神社仏閣、橋など、人間が生み出したものにとどまりません。人為を超越した山や川、樹木や巨石なども古典に入ります。広い意味の古典は、身近にたくさんあります。

第三が、自分と世界との関係です。「セカイヲ ミスエモチバデ ウゴカム」（世界を見すえ 持ち場で動かむ）です。順調な時も、行き詰まった時も、折りにふれて、自分の持ち場が大きな世界と結びついていることを感じとって欲しい。自分の生きる場と世界を関係づけると、視界が開けます。世界に志を同じくする人々がいると自覚する時、勇気が湧き、持ち場は揺るぎないものになります。みなさんの活躍を心からお祈りします。



職員が集めて学生に提供した水や食料

特集

東日本大震災と文大

東日本大震災により被害を受けられた方々に、心からお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

加藤祐三学長より

3月11日の午後2時46分すぎ、突然、学長室が揺れ始めた。揺れは次第に大きくなり、立ってられないほどになった。外では多数の教職員や学生たちが、揺れ続けている建物を不安げに見上げている。高田副学長がラジオを探してきて電源を入れると、震源地は東北地方の太平洋沖、マグニチュード8（後に9と修正）の巨大地震と聞こえてきた。

事の重大さを直感し、すぐに災害対策本部の設置を決定、附属図書館を臨時避難所と定めて学生等の安全確保及び誘導、構内での建物の被害状況の確認などの指示を行なった。

停電となったが、まだ昼間であったこともあり職員の対応は素早く、設立団体である都留市とも連携をとりながら、すぐに毛布や寝袋、懐中電灯や石油ストーブ、発電機や投光器などの機材と、水や非常食などの必要物資を各所から集めてきた。春休み中であったため、学内にいた学生はそれほど多くはなく、また、構内での倒壊などによる被害もなかった。しかし、入試の採点を担当する教員を含め、最大時には150名を越える学生、教職員が附属図書館に避難する事となった。夜になっても停電は続き、暗闇を照らす投光器の光を頼りに、皆で寄り添うように不安な夜を過ごした。

翌朝5時頃に電気が復旧したのでテレビをつけると、巨大津波による廃墟の映像にただ息を飲むばかりであった。まさに古今未曾有の大災害である。

翌12日以降、本学では被災地出身の学生た

ちをどう支援できるのかについて協議を行い、様々な具体策を議論して実行に移す準備を進め、3月14日付けで次の学長メッセージを本学HPに掲載した。

『被災された学生

みなさん及びご家族の方々へ、心からお見舞いを申し上げます。安否不明、寒さと不安、物資の不足等、困難はまだつづくと思われまします。歯をくいしばって持ちこたえましょう。（中略）

大学では、被災された学生の授業料免除等を検討しています。大学が、今も、これからも、みなさん一人一人を気遣い、応援し続けることを忘れないでください。被災を免れたみなさんも、未曾有の事態に立ちすくむ思いでしょう。大変でしょうが、できれば、今後の震災復興に自分がどのように寄与できるかを考え始めてください。英知と気力を結集し、文大生のできることを模索してください。多くの人が絶望の淵に立っている現在、若いみなさんにしかできないことがあるはずです。』

予定していた卒業式に関しては、学生にとって4年間の晴れ舞台であることから、実施できるのか、中止すべきかについては大変迷った。計画停電による会場（800席の大ホールと300席の小ホール）の安全な運営が可能か否か、交通手段の確保はどうか最大の焦点であり、迷



加藤祐三学長

特集

東日本大震災と文大

い悩んだ末に、やむなく中止を決定した。卒業式中止に伴い、「卒業生、大学院修了生のみなさんへ」と題して、学長メッセージをHPに掲載した（要約）。

『みなさんへ一言お伝えします。在学中、教師から学んだこと、友人やサークル活動から得たこと、そして何よりも、遠く親元を離れて大人の仲間入りをし、自己の責任と判断の重さを自覚したことの意義は、きわめて大きいと言えます。

みなさんの活躍する時代は、今回の大震災に直面して、価値観も社会システムも大きく変わるでしょう。新しい時代の推進力となるのは、いつでも若者の柔軟な発想と力です。壁にぶつかる時もあるでしょうが、自分の内面から湧きだす考えや感覚を信じ、大切にしてほしい。漠然としていても、これこそが、かけがえのない個性的で本源的なものだからです。

被災地において多くの人々が絶望の淵に立っている今、どのような支援ができるかということも真剣に模索してください。みなさんには、文大で身につけた、次世代を担うに相応しい知性と感性があります。これを存分に発揮していただきたい。

卒業してからも、4年間を過ごした「山紫水明の大学町」都留を思い出してください。折りを見てキャンパスを訪ね、教職員や後輩に気軽に声をかけて下さい。人変わり、季節が変わっても、ここがみなさんの母校だという事実は変わりません。

みなさんの活躍を心より祈念します。』

本学の支援策としては、規程に基づいて「保護者の住宅が全壊、大規模半壊、半壊の場合、入学金と前期授業料を免除する（一部損壊の場合は前期授業料の半額を免除）」という内容をHPに掲載した。

その後、本学後援会による緊急融資（当面の生活費や帰省交通費）等の情報を追加するとともに、都留市の家具付雇用促進住宅68戸の無償提供の情報を掲載した。

東北地方出身学生が比較的多い本学として

は、これだけでは十分でない。ほかに打てる手がないか、理事長の強い意向を受け職員らが知恵を出し合い、緊急理事会により「特別奨学金（給付）制度」（月額5万円×12カ月）を設けた。日本学生支援機構の月額6万円（貸与）と合わせれば、都留市内での学修・生活に十分な額である。

「兵は拙速を尊ぶ」とも言うように、緊急時の行動は「拙くても速い」ことが優先する。具体的な検討に入ってからわずか1週間での決定、法人化していなければ成し得ない措置であった。

いまもなお東日本大震災の惨状が、脳裏に焼きついている。被災した人々の思いはいかばかりか。

個々人の体験は、その人にとってかけがいのない「記憶」であっても、そのままでは広く共有されにくい。百人いれば百の体験がある。しかし矛盾するようだが、個人的なことは同時に普遍的な面を持つ。

個々人の被災体験と目撃情報の「記憶」を書きとめ、写真やビデオにおさめ、「記憶」を「記録」に変換することができないだろうか。こうした「記録」が広く共有されれば、そこから新しい局面が生まれると思う。それは絆、支えあい、成長、希望、さらに未来の展望へとつながるのではないか。

教職員や学生には、記録する能力と責務があると思う。「記憶」は時間とともに変質しやすい。どうかその前に、すぐ「記録」を始めてほしい。



散乱した図書を整理する担当職員

特集

東日本大震災と文大

現地レポート

「釜石／大槌の
被災地からのレポート」

社会学科教授 高田 研



本震災で被災し、若くして思い半ばで亡くなった学生、卒業生に対して追悼の意を表します。

地震から2ヶ月半。現地はいまだ「復興」の言葉よりも「避難」の状況のただ中にあります。

1 支援の拠点としての遠野

岩手県遠野市（人口約3万人 2011. 4）は、花巻から1時間、北上山地に入った盆地にあります。この遠野市にあるNPO「遠野山、里、暮らしネットワーク」（代表 菊池新一）は、3.11 以後いち早く市民組織として海岸地域への後方支援活動を開始し、この2ヶ月半、支援に走り続けてきました。遠野市社会福祉協議会や地元企業、市民団体、赤十字、JICAなど29の団体が加盟するコア組織「遠野まごころネット」が結成されると、その資料調達部門を担ってきました。

遠野は大槌、釜石、大船渡、陸前高田の海岸の町へ、峠を越えてそれぞれ1時間ほどで直接通う事が出来る立地条件にあり、支援拠点を構えるには最適の場所です。

この組織に3月25日、大学駐車場で大勢の学生と市民の力で仕分けた支援物資約20

tを搬入しました。ストックヤードは市民センターにある屋内の陸上競技場にあり、公的な支援物資とは別にNPOと書かれて仕切られた区域に積み上げました。

2 前線の拠点がある「栗林町」

甚大な被害を受けた釜石市鵜住居の海岸線から車で15分ほど内陸部に入った釜石市栗林町。ここに北海道の自然学校NPO「ねおす」（代表 高木晴光）が震災後すぐに拠点を構え、常時3人ほどのスタッフを常駐させて定点での支援を続けています。彼らがコーディネート機能を担い、我々の支援活動を現地のニーズとマッチングさせてくれています。

3月23日、地震から2週間目の時点では、集落の中心にある栗林小学校には鵜住居地域の住民が約300人避難されていました。栗林の人々はこの2週間、米を炊いてお握りをつくって提供され、地域の力で頑張ってきた。内陸部栗林と海岸部鵜住居とは古くから婚姻関係が多く、親戚宅への避難も多く見られます。

3 大槌町立赤浜小学校

3月25日、我々は大槌町立赤浜小学校を訪問しました。大槌湾の東端にあり、標高10m、眼下には民宿の屋根に乗りあげた釜石港の観光船「はまゆり」（200 t）が見えます。校舎の2階部分まで津波の被害を受けました。校庭に集められた児童は、危険を知らせる住民の声で、津波に追われながら校舎を回り込み裏山への脱出ルートを経て、35名全員が助かりました。学校の1階の窓は全てなくなり、コンクリートがむき出しの状態です。校舎の山側には自動車が引き波で寄



釜石のストックヤード

特集

東日本大震災と文大

せられて幾台も積み上がっています。

校庭には大きな焚き火が炊かれていて、大勢の男たちが暖をとっていました。

学校はまだ騒然とした雰囲気、当時は600人余の赤浜住民が3カ所の施設に分かれて避難していました。

4月19日、再び赤浜小学校を訪ねました。桜が満開でした。北海道からトラックの荷台に薪で炊く風呂を載せてやって来たという方と、校庭で風呂屋を開店いたしました。児童は18名に減。2階の教室に集められて勉強をしていました。

焚き火はその日も炊かれ、数人の男性が居られました。年配の方々が私に語られるのは遠い昔、遠洋漁業が元気だったころの「港と女」の話ばかり。火の向こう側で、泥だらけ



赤浜小学校でのお風呂トラック

になったポケットアルバムの写真を幾度も開いてはため息をつかれる男性が気になりました。

4 再び栗林

5月1日、3度目の釜石です。道路際には仮設住宅の建設がすすみ、随分暖かくなっていました。この日「ねおす」の車で北海道から届けられたホッケを、上栗林集会所に避難されている方々と一緒にいただきました。震災以後ここでは禁酒を守って来たそうです

社会科学の学生と教員で構成する地域社会学会では、4月30日、東日本大震災を考える特別緊急集会を開きました。大学として、学生として、教員＝専門的研究者として、この大震災にどう向き合うのか、それぞれの率直な思いを出し合い、何ができるのかを考えようという試みです。学生・教員約40人が参加し、多様なボランティア活動、震災を記憶・記録にとどめるための活動等々、いろいろな可能性の芽を見出すことができました。



赤浜小学校

が、この日はすこしばかりの焼酎が振る舞われ、和やかな一時を一緒にすることができました。

避難所では「若手」と呼ばれていた柏崎文彦さん（56才）は若い頃は遠洋漁業の船に乗り、その後は定置網で働き、地震までは個人でホタテの養殖を営んでいました。

遠洋の大型船を降りた年配者の多くは、小さいな船を操り、箱メガネで採るアワビやウニ漁などで生計をたてていましたが、現金収入が必要な世代である40～50代の方々は文彦さんのように養殖業に投資し、個人経営していた方が多いようです。

全てを失って2ヶ月半。写真は5月2日の片岸町室浜漁港の作業場です。

これまでは、緊急的な生活の支援が続けられ、我々もそこに微力ながらも参加して参りました。しかし今後は、まず彼らの世代が再起し、海に戻るための支援策が必要です。公的な支援が最も求められるところですが、市民運動としては、何が可能かを考えて行きたいと思います。



片岸町室浜漁港

特集

東日本大震災と文大

東日本大震災発生時の本学の様子

総務課長 相川 泰

3月11日、本学が位置する山梨県都留市も震度5を超える地震に見舞われ、学年末試験も終わり通常の授業期間中と比べ学内にいた学生数は多くなかったとはいえ、サークル活動、ゼミなどで建物内にいた学生、また3月8日に行った中期日程入学試験の採点に従事していた教員など相当数の者が学内で大きな揺れに遭遇しました。揺れははじめから10秒、20秒と経過する中、各建物から学生、教職員が1号館前、またグラウンドへと避難してきました。事務局にいた職員もこれまで経験したことのない大きな揺れの中、学生の誘導、また関係機関への連絡、被害状況の把握にと奔走しました。

地震発生直後から付近一帯が停電となり、教員及び学生の通勤・通学的手段である富士急行線がストップ。大学は地震発生後、直ちに災害対策本部を立ち上げ、交通機関がストップしたことによる帰宅困難な学生、教員、また一人暮らしのアパートへの帰宅に不安を覚える学生の

一時避難場所として附属図書館2階フロアーを提供することをいち早く決定しました。

地震発生直後からの停電は翌日早朝まで続くこととなりましたが、暗くなり始める時間帯になると、150名を超える学生、教職員が図書館フロアーに集まり、余震が続く中、不安な夜を過ごしました。その中には被災地域からの出身学生もあり、携帯電話もつながらない状況下、家族、友人の安否も判らず涙ながらに一夜を過ごした学生も存在しました。

職員は、全員配備体制をとり、設立団体である都留市の対策本部と連絡を取りながら、発電機、毛布、懐中電灯、水、非常食などの必要物資の調達を行い、どのくらい続くか分からない一時避難場所での対応策に迫られました。学生自治会からは懐中電灯、電池の提供とともに、毛布、水、非常食の配布等に協力していただき本当に助かりました。寝袋を早急に手配していただいた先生、大月駅からタクシーで大学に引き返し、不安に駆られる学生の心のケアを申し出ていただいた先生もあり、事務職員だけでは対応できないところをサポートしていただいた多くの先生方に感謝いたします。

また、学生が一時避難をしていることを知った近隣飲食店からはおにぎりの炊き出しもあり、非常食の乾パンだけでは物



軽食や毛布を用意し学生へ配布

足りなかった学生は本当にありがたかったと思います。ご支援、ご協力をいただいた多くの方々に感謝申し上げます。

夜が明けると同時に事務局職員総動員で各建物の被害状況の確認を行うと、図書の散乱、外内壁のひび割れ箇所がありましたが、幸い施設の大きな被害は見られませんでした。

このような中、震災翌日からは被災地域出身学生の安否確認の実施、大学として被災学生に対する様々な支援策を講じるとともに、今回の東日本大震災を教訓とし、緊急時に必要な物資の再点検、資機材の拡充を進めております。また、これまで事務職員が中心となっていた災害時の対応についても、災害対策規程を見直し、より実効性の高いものとするため、教員を含めた初動体制の確立、学内防災委員会の設置など、災害時における学生の安全確保に向けた対策を講じてまいりたいと考えております。



本棚から落ちた本



壁に入ったひび割れ

特集

東日本大震災と文大

被災学生への各種サポート一覧

学生課長 重原達也

東日本大震災において被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

3月11日の震災発生時点における在学生のうち東北3県を始め甚大な被害が生じた地域の出身者437名に対して直ちに安否確認を実施するとともに、下記に示すとおり被災学生に対して様々な支援策を講じています。被災地の1日も早い復興を願っています。

■授業料減免等

制 度 名	概 要	問い合わせ先
在学生の授業料の減免	罹災の状況により授業料を減免（全免、半免、徴収猶予）します。	学生課学生担当 0554-43-4341 内線 218
新入生の入学金、授業料の減免	罹災の状況により授業料等を減免します。（既に納付済みの場合は還付）	総務課入試室 0554-43-4341 内線 209

■奨学金

制 度 名	概 要	問い合わせ先
特別奨学金給付	本学独自に、家屋の全壊、学費負担者の死亡、行方不明である被災学生に対して、月額5万円の奨学金を1年間給付します。	学生課学生担当 0554-43-4341 内線 218
緊急採用奨学金等の受付	（財）日本学生支援機構では、緊急採用奨学金、減額返還・返還期限猶予の受付を行います。	学生課学生担当 0554-43-4341 内線 218

■緊急融資

制 度 名	概 要	問い合わせ先
都留文科大学後援会 緊急融資	大学後援会では、当面の生活費、帰省旅費等の支援のため緊急融資（限度額10万円。罹災状況により返済免除）を行います。電話、e-mail等での申し込み可。	学生課学生担当 0554-43-4341 内線 218 e-mail:gakusei@tsuru.ac.jp

■住居の提供

制 度 名	概 要	問い合わせ先
一時避難宿舍	留学生用宿舍（ワンルーム、バス・トイレ・キッチン付）7室を罹災状況により一時避難宿舍として7月中旬まで無償で提供します。	学生課学生担当 0554-43-4341 内線 218 e-mail:gakusei@tsuru.ac.jp
家具付き雇用促進住宅の提供	都留市では、雇用促進住宅68戸（家具付）を最長6ヵ月間無償で提供します。	都留市役所支援対策室 0554-43-1111
公営住宅の提供	山梨県では被災世帯に対して県営住宅を無償で提供します。	山梨県住宅供給公社 055-237-1656

■その他の支援

制 度 名	概 要	問い合わせ先
アパート引越し支援	荷物の運び先が罹災し、若しくは運搬不能となった場合には、一時的に大学で荷物を預かります。	学生課学生担当 0554-43-4341 内線 218
公立大学科目等履修制度の活用	被災地から近隣の公立大学に通い科目等履修制度を活用して取得した単位を本学で認定。	学生課教務担当 0554-43-4341 内線 214

新教員紹介

文大に着任するにあたって

食べることは
生きること

初等教育学科講師

平 和香子

本年4月1日に初等教育学科生活環境科学系に着任致しました平和香子です。1号館1Fの家庭科準備室(104)を拠点に、吉住典子先生や活気溢れるゼミ学生の皆さんと共に、和気藹藹と充実した毎日を過ごさせていただいております。

私の専門研究は、食育と調理科学や食品加工学といった食品科学に関連する分野です。近年においては、食品成分の化学的研究が分子レベルまで進み、食物の生体に及ぼす様々な影響も代謝メカニズムにまで科学的に解明されるようになりました。このよう

な背景の下、食品の呈味成分や、生理機能性成分の探索、筋肉タンパク質の分解とうま味の増加、鮮度と美味しさとの関連性などについて研究しています。またゼロエミッションの視点から、加工用途が少ない未利用食資源に食品加工を施し、新たな付加価値をつけた食品開発の創出にも取り組んでいます。一例として、漁獲量は多いものの利用用途の少ない魚種を魚醤油、蒲鉾等の加工食品の製造に活用するとともに、その製造過程における成分変動や最終製品の性質についての化学的分析や加工残渣の有効活用等について探索しています。こうした取り組みは、来るべき循環型社会に適応した、未利用水産資源の活用における一つの可能性を示すことにつながると考えています。

また、人間にとって食べ物とは生きていくために必要とするだけでなく、おいしい食

物は我々の生活にうるおいと喜びを与えています。しかし、私たちは毎日簡単に食べ物を得ることができ、食べられることが当然となっている現在、食に対してどこまで正しい知識を得られているのでしょうか？現代の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、新たな食の安全上の問題として海外への依存や農薬問題、放射能汚染問題なども生じており、食に関する情報が社会に氾濫する中で、人々は自ら正情報を取捨選択し、正しい食のあり方を学ぶことが求められています。こうした現状の中で、教育現場においても幼児期から食育を行うことの重要性が高まっており、幼保小の連携した指導の中で、食に対する学習効果の向上について研究活動を行っています。

余談ではありますが、私の息子は今4ヶ月で当然ながら未だ乳の味しか知りません。つい、よくいつも同じ味ばかりで飽きないなと思ってしまいますが、彼にとっては乳を飲むことは生きるための手段であり、まさに「食べることは生きること」なのだと実感する毎日です。

これからも、教育研究活動を通じて食の重要性について様々な側面からアプローチしていけたらと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。



歓迎コンパでの新3年ゼミ生と一緒に

新教員紹介

文大に着任するにあたって

2011 年の春に



国文学科准教授

長瀬由美

富士山が一際輝く晴天の 4 月 5 日、都留文科大学の入学式に初めて参加させて頂きました。私はホールの 1 番後ろの壁際から、一様に黒いスーツを着込んだ新入生達の後姿を見渡ししながら、思いをめぐらせていました。今いったい彼等の胸にはどれだけの希望と、それから同時に、厳しいであろう未来への不安や覚悟が渦まいていることだろうか。ホールの壁際から見ていたというのは、今年の入学式が東日本大震災の影響によって、例年の二部制とは異なる一部制で行われ、座席数に限りがあったためです。そう、「文大に着任するにあたって」はこの地震の話から始めることをお許し頂きたいと思います。

3 月 11 日の地震の起きた時刻、私は昼寝をしていた子供の横で、呑気に自分もうつらうつらしていたものです。揺れがどんどん大きくなって机上の物が落ち出し、慌てて子供に覆いかぶさったのを覚えています。2 月いっぱい非常勤講師の仕事をしきり終え、この 3 月は都留での講義の準備を進めておこうとおおいに張り切っていたのですが、着任を控えての明るい緊張感は、その日を境に、家

族の安全を確保しなければという心の緊張に取って替わってしまいました。

11 日以降の続く余震、そして何より原発の事故のために、東京の町と人々も動揺していました。児童館に行けば子供達は少なく（関東以西に実家のある少なからぬ人達が、子供を連れて帰ってしまったという）、アメリカに住んでいる姉は、子供を連れて東京を離れたほうがいいと電話をしてくる。水道水の汚染でミネラルウォーターが店から消え、まだミルクを必要とする子供を抱えて、ミネラルウォーターを探し回って 1 日が過ぎたりもしました。原発をめぐるのは、テレビや新聞の情報のみを鵜呑みにすることはできず、自分自身で情報を集めて判断するしかないらしい。今この国で何が起こっているのか、特に子供達にとってどれだけ危険なのか、ともかくも正確な情報を得たくて、インターネットで科学者のブログなどを懸命に読む日々でした。——つまりはこの 3 月後半、日本古典を学生に教えるべく採用されたにもかかわらず、その自分がすっかり古典どころではなくなってしまうていたわけです。そしてそうした中で思っていました。「いったい今、こういう大変な時に、古典を読むということ、学ぶということは、どういう意味がある



京都宇治川にて紫式部像と

のだろうか？」と。

ともあれ 4 月から授業が始まり、準備のために改めて古典に向き合い、学生の前で語るようになりました。そんな中で気付いたことがあります。緊張の続く現実の傍らで古典と向き合うことで、不思議なことに、自分のなかに回復するものがあると感じるのです。古典を読むひとときを通して、ある力を得て、現実に戻ってゆくことができる。それは前に進むための力であり、日常の不安と緊張から自分を治癒する力となっている。この感覚は、私だけのものなのでしょうか？

研究員と非常勤講師をかけ持つ生活の長かった私にとって、教育ということに本当に向き合うのはまさにこれからです。既にひと月が経ちましたが、評判に聞いていた通り、文大生達が学ぶことに対して、とても真摯な姿勢を持っているのに驚かされています。落ち着いたこの都留の地で、これからともに学び合えることを幸運にまた楽しみに思っています。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

都留文科大学に
着任するにあたって

英文学科准教授
ヘミッシュ・ギリズ

Hallo everyone! I joined Tsuru Bunka University this April, so I still have lots to learn about the university. Having said that, everyone around me has been very kind in helping me settle in here, and I am also very grateful to my new students for their enthusiasm and positive attitude. Even before coming to Tsuru Bun, I already knew about the atmosphere from my wife, who graduated from the English Department here.

Anyway, let me first say a little about how I got here. For the last six years I have been working for Kanda University of International Studies, first teaching and researching at the university itself, then transferring to a new English language centre in Hiroshima, created in partnership with Hiroshima Bunkyo Women's University. Both experiences were very enriching, the former as a marvelous learning experience within a strong collegial community, and the latter as an exciting chance to help set up a brand new language centre from scratch.

On the research side of

things, my main interests are foreign language education and in particular language learning motivation. I am very interested in why people do what they do and the dynamic complexity that lies therein. Hence I am currently engaged in a PhD course investigating the application of Dynamic Systems Theory to the study of language learning motivation.

Aside from my recent work and research experience, I have also developed a strong interest in Japanese culture and language, having first arrived here from the UK almost thirteen years ago now. I have travelled extensively around Japan, from Okinawa and Kyushu in the south, to Akita in the north – although I have yet to visit Hokkaido. For me, the appeal of Japan has always been the depth of its culture, so that no matter how deep you delve, there will always be further layers to uncover. The Japanese language I find equally intriguing: I love the unspoken aspect of communication, how a message can be transmitted



My treasure

in just one or two words, in a way that makes English seem clumsy. On a very personal and practical level, acquiring the language has allowed me to access Japanese culture, making the effort of learning it extremely worthwhile.

As well as learning foreign languages, my interests include philosophy, sailing, cooking, and of course playing with my baby daughter! While I was living in Hiroshima I also took part in various half-marathons. Although the experience was tough, it was also very rewarding, as I was able to visit a lot of places in the Chugoku area, which reminds me that another interest of mine is travel. I have been to over twenty countries so far, including India, Australia, China, and USA. However, I have yet to visit South America and Africa.

So, if you are a student here at Tsuru Bun, please feel free to come to my office and have a chat and practice your English, especially if you are interested in studying abroad (in England of course!). I am also very happy to give you advice about learning English. When I was working at Kanda University, as well as teaching in class, I also worked as a learning advisor in the self-access learning centre.

Anyway, I look forward to helping the university continue its valuable contribution to the local and national community.

新教員紹介

文大に着任するにあたって

自己紹介として



社会学科准教授

黒崎 剛

このたび縁あって、文大へやってまいりました。私は埼玉県の生まれで、これまで埼玉と東京を行ったり来たりしていましたが、はじめて山梨へ足を踏み入れます。富士の麓で一仕事、と思ってやってきましたが、富士は見えないのですね。とはいえ、自然に恵まれた、快適な環境で、いい仕事ができそうです。着任するにあたって、抱負というよりも自己紹介をこの場を借りて行なっておきます。

私の専門は哲学で、これまではドイツの哲学者、ヘーゲルに傾倒し、その論理を身に着けようとひたすら彼の著書を研究してきました。30代、40代はその研究に明け暮れ、35歳のときにはじめて博士論文の研究をようやく昨年、2010年にまとめることができました。15年かかったということは自慢にはなりませんが、それなりの作に仕上がったとの自負はあります。内容は、要するに、「現在のようないびつな社会（資本主義社会）の中に生きている人間が、思考だけは理性的であり、理性的社会の展望を描くことができるのか」という、私の生涯のテーマとなりそうな問題に解答するため

に、それに限りなく迫ったヘーゲルの社会認識方法論、古い世代にはおなじみのいわゆる「弁証法」の論理を明らかにしようとしたものです。ただし、この作では、ヘーゲルの論理がそうした理性的認識論にはならず、社会有機体論に転落してしまうのはなぜか、その失敗の理由を探ったもので、本来の課題はこれを踏み台にしてこれから始まることです。都留にいる間にそれに解答できればいいのですが。

もう一つの専門は「生命倫理」です。これは「インフォームド・コンセント」、「人工妊娠中絶」、「安楽死・尊厳死」、「脳死と臓器移植」、「人口生殖」、「遺伝子操作」をテーマとして、もっぱら講義をしながら深めてきたものです。残念ながら都留に移ってきてこの講義をする機会はなくなったのですが、なくなったのを機会として、近いうちにその

成果をまとめようと考えています。

私生活においては、また昨年は初めての子供が生まれ、49歳にして父となりました。私の父はその年には孫がいたのですが…。この子と遊ぶこと以外に、唯一の趣味と言っているいいものは、能、狂言です。能は学生時代に習っていましたが、現在は狂言に鞍替えし、ここ十数年楽しんでいきます。私が狂言をやっている姿を想像できないという人のために、写真を添えておきました。

今年50歳という節目の年を迎え、いままでは蓄える一方だった知識を、これからは吐き出す時期が来たと感じています。そんな折に都留に来たことは、やはり縁だったとしか言いようがありません。どこまで吐き出すことができるのか、自分でも楽しみです。



狂言 棒縛りを演じる筆者

新教員紹介

文大に着任するにあたって

都留文科大学に
着任するにあたって

比較文化学科准教授

水野光朗

本年4月、私は、比較文化学科に着任いたしました。

いささか面はゆいのですが、広報委員会から着任の挨拶を綴ることを求められたのを機に、これまでの研究を振り返りながら、今後残された仕事について触れてみたいと思います。

私の学問的な関心は、学部の卒業論文と修士論文で取り上げた1962年の中印国境紛争の分析から始まり、その後の研究は、三つの方向に派生していきました。

第一の方向は、中印国境紛争の歴史的背景としての、1913年から1914年に植民地インド帝国のシムラで開催されたシムラ会議の分析です。この視座からのシムラ会議の分析は、国際的に見ても先行研究が少なく、第一次資料と向き合う際に独特の手がかりを与えました。この仕事はアーカイブズ（公文書館）で原資料を蒐集する愉しみも教えてくれました。と同時に、研究対象を、世紀転換期におけるチベットの国際的位置づけの問題と前期中華民国史の実証的分析に拡大する契機と



中国・上海のリニアモーターカーにて（2008年）

もなりました。この成果を「中印国境紛争の研究」（博士學位論文）としてまとめました。

第二の方向は、1950年代初期において、中国とインドは、平和共存五原則を確認したにもかかわらず、国境問題の平和的解決に失敗し、武力紛争にいたった原因を、当時の国際関係を再解釈することによって、明らかにすることです。この視座は、冷戦史の理解と、非同盟運動の再解釈を迫るものでした。1960年代後半に顕在化する中ソ対立に代表される東側ブロック内部の国際関係の理解も求められました。

第三の方向は、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ地域において、近代国民国家相互を隔てる国境概念が、どのような経緯を経て形成されたのかを考察することです。この作業は、中印国境紛争で議論の焦点となった国境概念を普

遍化できるかどうかという比較の視座へと否応がなしに研究を拡大しました。

このように研究は拡大の一端をたどってきましたが、中印国境紛争には、未解明な箇所も数多く残されています。最大の課題は、紛争当事国の政策決定過程を詳らかに明らかにする作業です。また、国内の世論形成が、政策、とりわけ対外政策の決定に与えた影響を吟味することも今後に残された課題といえます。目下、本学への着任を機に初心に立ち戻って研究の完成に努めたいと決意を固めているところです。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

私が伝えたいこと



初等教育学科
特任教授
酒巻洋一

この度、初等教育学科に特任として着任しました酒巻です。自己紹介を兼ね、自分の研究について記したいと思います。

私の専門は美術(絵画表現)です。学部・大学院とも油画を専攻していました。当初は油彩画を表現方法として制作していましたが、その後油彩誕生以前の描画技法である卵黄テンペラ画へ移行し、修了制作では中世ヨーロッパの宗教画に用いられた黄金背景板絵技法を応用した制作になりました。その後博士課程・イタリア滞在の期間を経て大理石モザイクの技法に触れる機会を得て、その展開としてモザイクによる立体作品を制作

するようになりました。現在では、大理石モザイクの立体作品、金地背景板絵、鉛筆・ペンによるドローイング作品等を並行して制作しています。

画家は制作の中で画面の「図」だけを考えているわけではありません。作品を、絵の具や支持体を「物体」として意識しています。さらに額装や、壁面への設置、立体作品であれば、どのような台座へ置くか、どのように設置すべきかなど、空間とともに作品を成立させることを考えます。

私も多様な表現手段を取り入れながら、常にそのことを意識しながら制作しています。「場」や「間」を意識することなくしては、巧みな技法や磨かれた感覚をもって制作された作品であっても、まったく見え方が変わってしまうということです。逆に言えば、シンプルな何気ない作品も神経を研ぎ澄ましてしか

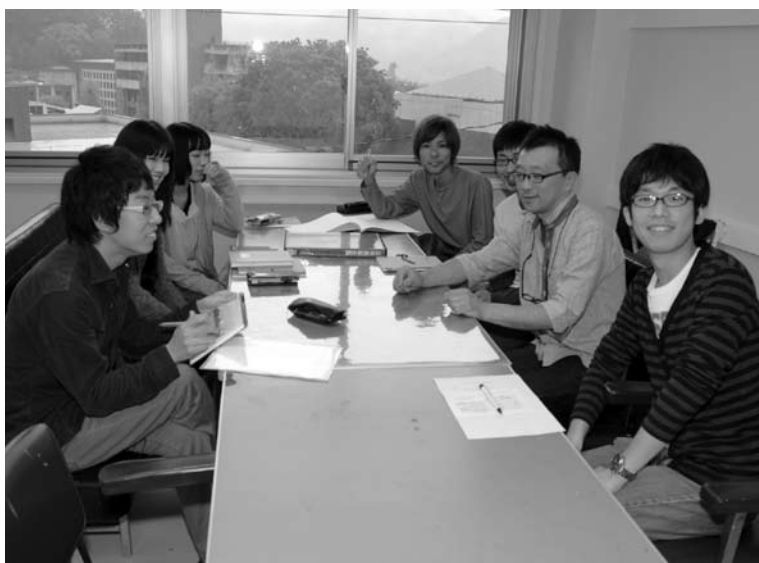
るべき場所に据えれば、光を放つこともありえます。

制作や展示の手法についてばかり言及しましたが、肝心の主題に関しては、簡単に言葉として綴ることはできません。日常の中で私を突き動かすような出来事、けして大きな事件などではない些細な事柄が折り重なって、次第にイメージが見えてくるのです。大切なのは、その極めて個人的なことに起因したイメージを、いかにして他者に伝わるように具現化するのか、工夫してゆくことです。また、その為に「美しさ」が必要なのだと思います。

私は3年前から非常勤講師として文大で「図工実技演習」や「表現」の授業を担当してきました。当初、自分の専門性をベースとして、何を伝えていくべきか、いろいろと考えました。

小学校教員を目指す学生諸君に伝えるべきことは、「作る喜び」や「工夫する楽しみ」です。図画工作の授業を行うために教員に必要とされるスキルは、本や資料を読んだり、画一的な教材による制作では身につけません。

まず、自らが進んで制作を行うこと。その過程の中で「作る喜び」「工夫する楽しみ」を感じ、自分自身の表現世界を理解する必要があります。その為には、たとえ制作が不得意であっても、取り組む姿勢こそが大切なのだということを、授業のみならず、様々な機会の中で伝えていきたいと思っています。



担当の学生とゼミ室にて

新教員紹介

文大に着任するにあたって

自分の価値を
発見する場

英文学科
特任教授
松土 清

ずいぶん前のことになるが、英国の大学院寮に世界十数ヶ国の教師達と長期同居したことがある。それぞれ外地のことなので、夏から秋にかけての週末は、美術館巡りや小旅行などをしていたが、冬になり夜が長くなると、週末は夜更けまでお国自慢などをして過ごしたものである。

ある夜、それぞれの国ではいつから新学期がスタートするのかという話題になった。オーストラリアでは「夏休み明けの1月末」と聞いたとき、北半球の教師達は一様に理解までに一瞬を要した。ヨーロッパ、中近東などは9月が圧倒的に多かったが、シンガポールの教師は年の変わり目の1月の妥当性を主張した。私は「桜の花で始まる四季」で日本の4月を説いたが列強

の前で立ち往生。そんな時、インドの教師の「地方によってまちまち」という答えに皆の矛先が向き、救われた。

またある夜、「学校とは何か」という話題になり、古代ギリシャの「スコレー」の語源論から始まり、それぞれの国情を背景にした様々な定義が飛び交った。最後には「人間の潜在能力を引き出すこと」や「モチベーションを高めること」の大切さが語られ、「教育によってこそ社会が維持・発展すること」が再確認されるなど、いかにも教師達らしい結論に至り、皆でメモをした。日本の「知徳体のバランス」論も比較的賛同を得た。

それから長い時を経て、その夜の、あるドイツ人教師の「学校は一人ひとりが自分の価値を発見する場」という言葉をふと思い出した。あらためて納得するとともに、その後、講演会や研集会など様々な機会にその言葉を何回も引用させていただいた。

「教える対象」ではない「学ぶ主体」たる子ども達が、同級生との摩擦の中で自分の輪郭を掴み、教師の啓発で学び



校長時代の在校生達と
都留キャンパスで再会

をおぼえ、褒められたり役割を与えられる経験を通して自分の価値を発見する場所、確かに学校はそんな感化する力を持った場所であると思う。そして、そのような学校づくりのための必須の要件はと考えると、決して新築の校舎や多色刷りのテキストあるいは最新のメソドロジーで完結されようはずはなく、どの角度から手繰り寄せていっても、必ず「教育は人なり」に帰着する。

このたび本学において、将来の教育を担う「人財」づくりという得難い任務をいただいた。今までの、校長として教師を「束ねる」、あるいは教育長として教師を「採る」という立場から一転し、これからは教師を「育てる」という最も根幹たる仕事に専念できる機会を得たことを大変嬉しく思っている。本学で教職を目指す人たちの進路実現のために、今までの経験から学んだ全てを駆使して任務に当たりたい。

その夜、そのドイツ人教師が付け加えた「学習者だけではなく、『教師にとっても』自分の価値を発見する場所」という言葉が、また頭の中をめぐっている。



バグパイプを使って調音器官を説明（英語音声学にて）

学外研究報告

富士山と
ゴヨウマツとDNA初等教育学科教授
坂田有紀子

この度いただいた学外研究期間を、研究者としてリハビリしつつ新たな研究分野へとチャレンジする1年間と位置づけ、国立極地研究所（以下極地研究所）と東京大学アジア生物環境資源研究センター（以下東大アジアセンター）で勉強や共同研



極地研究所外観

究をしてきました。極地研究所の生物部門は小型ロガーを用いた動物生態学の研究では世界でもトップクラスの実績があり、GPS ロガーやカメラロガー、加速度ロガーなどを用いてペンギンやアザラシなどの南極海での生活の様子を次々と明らかにしています。また、南極には未だに種名がわからない生き物がたくさんいますが、DNA による同定・分類手法を用い、南極の生物相や他の大陸の近縁種との関係について遺伝子レベルで解明を進めています。東大アジアセンターの森林分子生態学研究室では、DNA マイクロサテライトマーカーという高分解能DNA マーカーを用いて植物や菌類などの遺伝的多様性や繁殖特性に関する研究をおこなって

おり、新進気鋭の研究者たちが集まっています。

今回の学外研究では、上記研究機関の研究者と共同研究という形で、「富士山5合目森林限界上部におけるゴヨウマツの分布とその要因」というテーマの研究をおこないました。

この研究紹介を少し。富士山では、ゴヨウマツは青木ヶ原から4.5合目まで広い範囲に点在していますが、5合目より上では親木と思われるゴヨウマツがないにも関わらず、ゴヨウマツの実生（幼个体）がたくさんあります。その原因を探っていくうちに、ある動物がゴヨウマツの種子を冬の間の食料として森林限界上部の地面に貯食していることがわかってきました。つまりその動物がゴヨウマツの種子を運んでいるわけですが、問題はその種子がどこから来たのか？ということです。私たちは、その動物が標高1000mの青木ヶ原から標高2400mの5合目まで運び上げているのではないかと考えました。そこで、その動物に小型電波発信機をつけて行動範囲を調査し、DNA マイクロサテライトマーカーを用いて5合目のゴヨウマツ実生の親木を探そうと計画しました。私は主に野外調査とDNA分析の担当だったのですが、DNA分析に関しては

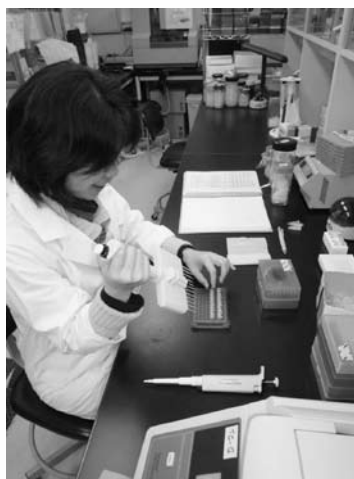


東大アジアセンターの練春蘭先生を囲んで

全くの素人だったので、東大アジアセンターで実験手法を基礎から教えていただきました。最初は失敗ばかりで気が滅入る日々でしたが、周囲の温かいサポートのおかげで研究期間後半には実験が楽しくなり、ある程度まとめた結果が出せるようになりました。しかし1年という短い期間で野外調査とDNA分析を両立させ、研究の最終目標を達成できるわけではなく、今後も2～3年かけてこの研究を続けてゆくつもりです。

今回勉強してきたDNAを用いた研究手法は、野外の生物集団の遺伝的多様性を調べることが可能で、絶滅の危機に瀕した生き物の保全のためには欠かせない手法です。今後は、学外

研究で学んだ研究手法や考え方を、地域の生物多様性保全のための研究と教育に役立てていきたいと考えています。最後になりましたが、学外研究中にお世話になった全ての方々に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



DNA分析中の筆者

学外研究報告

旅から戻った時に、
新たな旅が始まる比較文化学科教授
分田 順子

学外研究期間中は、教育そして学科・大学運営など、多くの仕事を肩代わりしていただき、大変ありがとうございました。お蔭さまでこの半年間は、世界各地のコミュニティ・アートの制作現場や発表の場を訪れ、念願だった調査や取材を実施することができました。

コミュニティ・アートは、まだ日本では耳慣れない分野ですが、紛争や移住者・難民の受け入れ、また様々な格差の拡大、自然災害などによって分断・解体の危機にあるコミュニティを、アート事業によって再建しようという試みです。そこでは社会から排除された人々に機会と地域を開き、共に生きられる社会を創り出してゆくことが目指されています。

今回の調査では、これまで私がフィールドにしてきた北アイルランドで、コミュニティ・ドラマについての継続調査を行い、紛争後の社会再建過程への参加どころか、いまだに沈黙を余儀なくされている人々（とくに同地の支配者側に位置づけられてきた女性）の存在にあらためて気づかされました。また開拓中のフィールドのシンガポールでは、多言語・多文化に特色づけられる社会に根ざして活動してきた劇団関係者の話を聴きました。同地でも演劇制作の過

程が、市民を巻き込み、社会に向き合うための場となっていること、そしてここでも新たな市民像が模索されていることを再確認したしだいです。

これらのフィールド・ワークの他に、ニューヨークとロッテルダムでは、この分野の国際会議やフェスティバルに参加し、これまでネットをつうじて知っていただけのオーストラリア、南アフリカ、セルビアなどからの参加団体が披露した作品に直に接して心躍る時を過ごしました。彼らが運営するワークショップでは、それぞれの地域における日頃の活動を追体験し、個々に孤立し声を奪われた状況にある人々との間に信頼関係を築いてゆくことの難しさと大切さについて学び直しました。中でもロッテルダムの neighbourhood theatre を標榜する RWT が上演した作品は、ソマリア系の移住女性自身が、ステージ上で自らのコミュニティの抱える問題（FGM など）を語る方法を採用していて、そうした作品制作を可能にする劇団と地域住民の関係がどのように育まれたのかに

関心をもちました。

シンガポールの劇作家 Kuo Pao Kun は、『宦官提督の末裔』の中で、‘Departing is my arrival. Wandering is my residence.’ と記しています。私なりの解釈では「旅を住処とする私には、帰り着いた時が新たな旅立ちの時」となるこの言葉に巡り合えたのは、2001 年からの 1 年を北アイルランドで過ごした前回の学外研究の賜物でした。その「旅」が今回の、世界各地で活動するコミュニティ・アート団体との出会いにつながるとは思ってもみませんでした。辿りついた先で人々が異口同音に語った ‘live together’ という志と、それが各地で引き起こしている「うねり」、そして彼らが連なりあって変革を求める力となっていることを実感できたのが今回の旅の最大の収穫であることは間違いありません。しかし本当の収穫は、すでに始まった新たな旅の途上に待っているという予感があります。この期待を支えとして、今後の研究教育活動をつづけてゆきたいと思っています。



世界各地のコミュニティ・アートの「今」を示す資料から

樋渡登先生追悼

惜別 国文学科
樋渡登教授を偲んで国文学科教授
高橋宏幸

平成 23 年 3 月 21 日午前 9 時 44 分、前夜に就寝なさったまま目覚めることなく安らかにお逝きになったそう。満 60 歳であった。

樋渡先生は山形県飽海郡松山町（現、酒田市）に生まれ、酒田東高を卒業後、國學院大學文学部文学科に進む。研究テーマは、「東国方言史の研究」といえる。大学入学後地方史研究会に入り、村方文書などの調査もなさった。故郷の方言史についても、大学の先輩でもある三矢重松博士が研究なさった『莊内浜荻』（明和 4 年）の諸本を研究し（「都留文科大学研究紀要」54 号）、複製なさった（『近世方言辞書』2 輯・港の人）。さらに、『莊内方言考』（幕末）の分析方法と語史の研究をなさる（『古文書の語る地方史』吉川弘文館）一方で、町や市の依頼により長期にわたって石川県能登島（『能登島町史』）や東京都国立の方言調査をなさった（『国立市史』）。昭和 54 年 4 月本学に赴任後、稲垣正幸教授の後を受け継いで都留文科大学方言研究会を率

いて県内の方言採集もずいぶんなさった。その貴重な録音資料は、御奥様にお願い申し上げ、本学附属図書館にご寄贈いただいた。

金田弘教授のご指導の下、曹洞宗の講義録である洞門抄物を資料とする中・近世語研究を専攻された契機も地方史研究会での洞門抄物との出会いであったという。現在ではかなり多くのテキストが複製されているが、当時はほとんどなく、新資料発掘と調査の

在りし日の樋渡先生
（県民コミュニティカレッジ講座にて）

ため各地の寺院を訪ね写真撮影させていただき、難解な表記と内容を解説し東国語研究資料となさった。30 年にわたる研究を『洞門抄物による近世語の研究』（おうふう）として纏め、國學院大學から文学博士の学位を授与され、また大学院での指導教授である吉川泰雄元学長の学績を記念した「吉川博士記念賞」も受賞した。

樋渡教授の学界への大きな貢献は、停滞していた「近代語学会」から 1982 年「青年近代語研究会」を興し、世話

人の中心になって例会を重ね（現在、282 回）、ついには年 2 回、日本語学会の前日に大会をも開く「近代語研究会」へと発展させ、その理事として、多くの院生達に研究発表の場を提供したことであろう。それを契機として業績を積み活躍の場を得た方も多く、それを物語るようにご葬儀へ研究者が大勢弔問された。

大学では、就職担当の評議員として特に共通教育科目に「キャリア形成論」を設置し、まずは高校の同窓を始めとして彼の人脈につながる企業のトップの方々をお招きして、「働くとは、仕事とは」のお話をさせていただき学生の就職に対する自覚を促した。また法人化後は学長補佐として、大学基準協会へ提出する書類の作成責任者になり、各部門責任者への原稿依頼、執筆の催促、原稿の整理等、

並の苦労ではなかったであろう。最期まで気に掛けていらした。教育者としても、楽しいゼミを目指し、ゼミコンパ、夏の合宿などもいろいろ工夫なさったようで、その結果、国語学という取っ付きの悪いゼミなのに希望者が毎年定員を超えるほどになった。卒業生が大勢参列なさっていたのは、きっとその熱意が届いたのであろう。

御戒名は「善教院登雲禅智居士」、お元気な頃を偲び、御冥福をお祈り申し上げます。

昨年度の就職状況を振り返る

就職委員会委員長 寺川宏之



平成22年度、本学では717名の卒業生（前期卒業生含む）を送り出しました。就職希望者は530名で、その内の82.5%、437名の就職が決まりました。就職率は平成18年度から20年度までの3年間は95%前後でしたが、この2年間で急落しています。これは、教員（臨時採用含む）、公務員における就職者数の増加はあるものの、民間企業への就職者数の落ち込みに依ります。

就職先の内訳は、頁下の表に示したとおりです。教員として採用されたものは公立、私立合わせて176名で、この6年間増加を続けています。公立学校で正規採用となったものも87名にのぼり

ました。公立学校では、北海道から鹿児島まで全国43都道府県（臨時採用を含む）にまで広がりました。正規採用では採用数の多い首都圏（特に、千葉、東京、神奈川、横浜市）の比率が高い傾向が続いていますが、昨年度は栃木、群馬、山梨、長野、静岡県・市、愛知、三重、京都、神戸市、和歌山で複数の合格者がでました。

民間企業の採用手控えもあってのことかもしれませんが、公務員は38名から44名と増えました。一昨年度に比べ女子の健闘が目立ちます。英文学科の公務員就職が増えた結果です。

民間企業就職者ですが一昨年度に引き続き大きく減りま

した。文部科学省と厚生労働省によれば、今春卒業した大学生の就職内定率は91.1%で、統計を取り始めた1997年以降で最低だということです。さらに、東日本大震災で被害の多かった東北地方の大学はこの調査の対象には含まれていないことを考えると、実態はさらに低い可能性がある」と推測されます（5月24日、朝日新聞）。製造業とサービス業では若干の増加となりましたが、運輸通信業、卸小売業、金融保険業、情報処理が減っています。

また、資料としては示していませんが、大学院などへの進学者は51名でした。専門学校や大学の研究生・科目等履修生などは一昨年度の13

平成23年3月卒業生 就職先一覧

■初等教育学科

企業

- ※(株)アーバンリサーチ
- ※(株)サンキョー(甲斐ゼミナール)
- ※(株)スタンダードカンパニー
- ※(株)戸田屋
- ※(株)親和銀行
- ※オークラヤ住宅 株式会社
- ※カワイ音楽教室 松本南
- ※たかの友梨ビューティクリニック(合併処理済)
- ※ヒューマンアカデミー㈱
- ※株式会社 アワーズ
- ※株式会社 シャトレゼ
- ※株式会社 ミニミニ
- ※株式会社 山梨中央銀行
- ※株式会社 日本保育サービス
- ※株式会社 富士急ハイランド
- ※株式会社ピースバスポート
- ※株式会社ホットランド
- ※株式会社小泉
- ※株式会社大善
- ※若手トコベツ株式会社
- ※興羽化学工業(株)
- ※甲陽学園
- ※三菱商事フィナンシャルサービス(株)
- ※社会福祉法人 児童養護施設 同仁学院

- ※祖川幼児教育センター
- ※特定非営利活動法人 日本ラッピング振興機構
- ※独立行政法人 国立青年の家本部
- ※富士新幸(株)

公務員

- ※横浜市役所
- ※山梨県庁
- ※南砺市役所
- ※能美市役所
- ※名古屋市役所

教員

- ※青森県教育委員会
- ※茨城県教育委員会
- ※栃木県教育委員会
- ※さいたま市教育委員会
- ※千葉県教育委員会
- ※東京都教育委員会
- ※神奈川県教育委員会
- ※横浜市教育委員会
- ※川崎市教育委員会
- ※富山県教育委員会
- ※石川県教育委員会
- ※福井県教育委員会
- ※山梨県教育委員会
- ※長野県教育委員会
- ※岐阜県教育委員会
- ※浜松市教育委員会
- ※静岡県教育委員会
- ※愛知県教育委員会
- ※三重県教育委員会
- ※京都市教育委員会
- ※大阪府教育委員会

- ※兵庫県教育委員会
- ※神戸市教育委員会
- ※和歌山県教育委員会
- ※島根県教育委員会
- ※岡山県教育委員会
- ※山口県教育委員会
- ※徳島県教育委員会
- ※香川県教育委員会
- ※長崎県教育委員会
- ※宮崎県教育委員会

■国文学科

企業

- ※(株)ウェルライフ信州
- ※(株)イーベーション・マート
- ※(株)オーラルケア
- ※(株)ブラザクリエイト
- ※(株)横浜ファーマシー
- ※(株)損害保険ジャパン
- ※(株)明光ネットワークジャパン
- ※(社)旭会 特別養護老人ホームみずほ
- ※(社)ゆ暖会 特別養護老人ホームゆ暖の郷
- ※アルプス農業協同組合
- ※うすい学園
- ※ゲンキー 株式会社
- ※ブックオフコーポレーション(株)
- ※学校法人 松本学園
- ※株式会社 ABC Cooking Studio
- ※株式会社 B & P

- ※株式会社 アークシステム
- ※株式会社 いちやまマート
- ※株式会社 ノジマ
- ※株式会社 リクルート
- ※株式会社 三城
- ※株式会社 北陸銀行
- ※株式会社ニッテック
- ※株式会社協立製作所
- ※三神司法書士事務所
- ※信学会グループ
- ※日立ソフシステムデザイン(株)
- ※有限会社エフビーエイ
- ※富士五湖調剤薬局
- ※郵便局(株)

公務員

- ※防衛庁陸上自衛隊
- ※防衛庁海上自衛隊
- ※京区役所
- ※新潟県庁
- ※津南町役場
- ※甲州市役所
- ※伊佐市役所

教員

- ※栃木県教育委員会
- ※群馬県教育委員会
- ※東京都教育委員会
- ※山梨県教育委員会
- ※石川県教育委員会
- ※長野県教育委員会

- ※岐阜県教育委員会
- ※静岡県教育委員会
- ※浜松市教育委員会
- ※愛知県教育委員会
- ※神戸市教育委員会
- ※鳥取県教育委員会
- ※長崎県教育委員会

■英文学科

企業

- ※(株)カネジョウ
- ※(株)ダイフレックス
- ※(株)てるみくらぶ
- ※(株)フライングガーデン
- ※(株)ワイワイタイランド
- ※(株)丸ノ内ホテル
- ※(株)三万石
- ※(株)不二
- ※(株)富士レックホテル
- ※(有)宮崎メディカル
- ※J A 全農農業センター株式会社
- ※エムオーツーリスト(株)
- ※サンワテクノ株式会社
- ※スターバックスコーヒージャパン(株)
- ※トヨタカラー富士(株)
- ※パークタワーホテル(株)
- ※パークハイアット東京
- ※ふじやま保険グループ
- ※ルートイングループ
- ※レイオンコンサルティング(株)
- ※伊豆太陽農業協同組合

- ※学校法人高宮学園 代々木ゼミナール
- ※株式会社 E C C
- ※株式会社 イーオン
- ※株式会社 カクタ
- ※株式会社 ケーヨー
- ※株式会社 とんてん
- ※株式会社 プロシステムエルオーシー
- ※株式会社 雑貨屋ブルドッグ
- ※株式会社 東洋信号通信社
- ※株式会社 富士急ハイランド
- ※株式会社 文理学院
- ※株式会社 平井精密
- ※㈱エフ・ジー・アール
- ※㈱フォトスタジオコイズミ
- ※亀有信用金庫
- ※栗原商船株式会社
- ※周南農業協同組合
- ※信学会グループ
- ※西三河農業共済組合
- ※第一生命保険相互会社
- ※東急リネン・サプライ(株)
- ※東日本電信電話(株)
- ※奈良田温泉 白根館
- ※富士観光開発 株式会社
- ※名成産業株式会社

公務員

- ※防衛庁陸上自衛隊
- ※山梨県警察本部

名から 21 名に増えました。ほぼ一昨年度並みですが、海外留学は 6 名でした。数が少なく毎年の変動も大きいのですが、勉学の継続のスタイルとして、本学でも定着してきたと見ることはできるのではないのでしょうか。

以上、昨年度の就職・進学状況の特徴をまとめました。卒業生のうち就職決定者と大学院進学者を合わせると7割弱となりますが、未決定の卒業生もそれぞれの進路を切り開くべく努力していることも忘れるべきではないでしょ

表1 平成16～22年度の就職関係データ

	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
卒業者数 A	713	629	675	642	683	667	717
就職希望者数 B	521	520	516	490	521	511	530
就職決定者数 C	403	430	488	467	492	459	437
大学院等進学者数 D	49	35	44	47	53	53	51
就職率 C/B × 100	77.35	82.69	94.57	95.31	94.43	89.82	82.45
進路決定率 (C+D)/A × 100	63.39	73.93	78.81	80.06	79.80	76.76	68.06
内 訳							
企 業	227	260	315	309	315	252	217
教 員	151	135	136	138	153	169	176
公務員	25	29	37	20	24	38	44

5.

最後に、キャリアサポート
室では現在、入学時からの
キャリア形成支援に向けた取
組みの再検討を行っていま

す。学生のみなさんのための
充実した利用しやすい支援体
制を組み、みなさんの希望す
る就職ができるように応援し
ていきます。

表2 平成23年3月卒業者（前期卒を含む）の就職先別人数

A	教員	小学校	118
		中学校	32
		高等学校	16
		特別支援	6
		私立学校	4
		教員合計	176

B	公務員	国家公務員	4
		地方公務員	40
		公務員合計	44

C 民間企業	農業	1
	建設業	5
	製造業	19
	電気・ガス熱提供業	3
	運輸通信業	13
	卸小売業	52
	金融保険業	17
	不動産業	10
	サービス業	87
	情報処理	10
	合 計	217

D	北海道	2	静岡＊	14
	青森	1	愛知＊	6
	宮城	1	三重	4
	秋田	1	京都	3
	福島	1	大阪＊	1
	茨城	2	兵庫	7
	栃木	7	岡山	3
	群馬	5	鳥取	2
	埼玉	1	島根	1
	千葉	7	岡山	1
	東京	11	山口	1
	神奈川	40	徳島	1
	新潟	2	香川	2
	富山	4	愛媛	1
	石川	3	高知	1
	福井	2	崎	2
	山梨	13	分	1
	長野	10	宮崎	1
	岐阜	6	鹿児島	1
		合 計	172	

* 当該県の政令指定都市も含む

- * 山梨県庁
- * 山梨県警察本部
- * 笛吹市役所
- * 大町市役所
- * 香美町役場
- * 府中市役所
- * 沖縄市役所

教員

- *北海道教育委員会
- *宮城県教育委員会
- *秋田県教育委員会
- *福島県教育委員会
- *茨城県教育委員会
- *栃木県教育委員会
- *東京都教育委員会
- *神奈川県教育委員会
- *千葉県教育委員会
- *新潟県教育委員会
- *富山県教育委員会
- *長野県教育委員会
- *静岡県教育委員会
- *三重県教育委員会
- *愛媛県教育委員会
- *高知県教育委員会
- *大分県教育委員会
- *鹿児島県教育委員会

■ 社会学科

現代社会専攻

企業

- ＊(株)スズキ自販静岡
- ＊(株)日本トイザラス
- ＊(株)明光ネットワーク
ジャパン
- ＊(株)臨海セミナー

- ※ワタミの介護(株)
- ※伊豆酒店(株)
- ※医療法人社団 光彰会
本田病院医院
- ※医療法人社団 篠原会 甲府脳神経外科病院
- ※株式会社 シャトレーズ
- ※株式会社 トーハン
- ※株式会社 ネクスシステム
- ※株式会社 ヤコウ
- ※株式会社 栃木銀行
- ※株式会社 シンプル
- ※株式会社花徳
- ※株式会社 塩山製作所
- ※社会医療法人 石心会
山病院
- ※社会福祉法人 春風会
- ※上伊那農業協同組合
- ※西美農産業協同組合(J A にしみの)
- ※総合スタッフグループ
- ※大石会計士・税理士事務所
- ※長野県厚生農業協同組合連合会
- ※都留信用組合
- ※東海旅客鉄道(株)
- ※浜友賀 株式会社
- ※富士宮信用金庫
- ※明治産業株式会社
- ※金光大塚中学校高等学校
- ※郵便局(株)
- ※郵便事業(株)

公務員
* 宮城県庁
* 武蔵野市役所
* 国立市役所
* 警視庁

- * 東京消防庁
- * 都留文科大学
- * 山梨県警察本部
- * 宮田村役場
- * 小諸市役所
- * 兵庫県警察本部
- * 周南市役所

教員

- * 神奈川県教育委員会
- * 長野県教育委員会
- * 岐阜県教育委員会
- * 静岡県教育委員会
- * 京都府教育委員会
- * 神戸市教育委員会

環境コミュニティ創造専攻

企業

- ＊(株)北日本銀行
- ＊福島民友新聞社
- ＊社団法人 南会津法人会
- ＊株式会社 クローバー
水戸営業所
- ＊(株)南ヶ丘牧場
- ＊北関東総合警備保障(株)
- ＊郵便局(株)
- ＊昭和西川(株)
- ＊(株)オータ
- ＊住友林業 株式会社
- ＊株式会社 ダイオーズ
- ＊株式会社 河内屋
- ＊東洋美術印刷㈱
- ＊日本瓦斯 株式会社
- ＊株式会社リロ・ホール
ディング
- ＊中萬学院
- ＊北電システムサービス
(株)

- * (有)ストアインク
- * 甲府信用金庫
- * (株)サンキョー(甲斐三
ミナール)
- * 富士宮信用金庫
- * 山梨製茶株式会社
- * 遠州トラック(株)
- * 積水ハウス 株式会社
- * 野外教育研究所IOE
- * カンスローファーム

公務員

- * 若狭消防組合
- * 山梨県立ゆずりはら青年自然の里
- * 山中湖村役場

教員

- *群馬県教育委員会
- *新潟県教育委員会
- *岐阜県教育委員会
- *和歌山県教育委員会
- *鳥取県教育委員会

■比較文化学科

企業

- * (株)イービーエム
- * 北海道漁業協同組合連合会
- * 磐井農業共済組合
- * (株)センチュリーホー
- * 株式会社 ワンダーコーポレーション
- * 塩野谷農業協同組合 (Aしおのや)
- * うすい学園
- * 株式会社コーポレーション

- ※(株)ANAエアサービス
- 東京
- ※日本フードサービス
- ※ハイトップジャンボ株式会社
- ※すいかーくグループ
- ※合同会社ムースオーバー
- ※リーコジャパン(株)
- ※株式会社ビビット
- ※アチーブメント(株)
- ※株式会社 ハピネット
- ※ユメックス(株)
- ※郵便局(株)
- ※シナケン 株式会社
- ※東日本旅客鉄道 株式会社
- ※(株)B&Cラボトリーズ
- ※東日本電信電話(株)
- ※(株)エチ・アイ・エス
- ※アルビオン株式会社
- ※株式会社エイクルズ
- ※株式会社クラウドティクス
- ※シューサービス
- ※株式会社 ジュエスク
- ※ベール
- ※株式会社コンベックス
- ※株式会社、ワイザー
- ※ソリューションズ
- ※(株)ニッポン
- ※国際観光 人材紹介
- ※神奈川世せん人材紹介所
- ※練イノベーション
- 長岡校
- ※(株)諸長
- ※能登わがが農業協同組合
- (JA能登わがが)
- ※株式会社加賀首

- * 有限会社 アッシュ
- * 美空建設(株)
- * 株式会社 セルバ
- * 久久ホテル神の湯温泉株式
会社
- * 東柱メディカルトリニク
(株)
- * 富士スノーホテル
- * 静銀ビジネスクリエイト
(株)
- * 株式会社 トライヤ
- * 株式会社オリエント
フーズ
- * 静銀ビジネスクリエイト
(株)
- * 御殿場高原ビール
チェーン
- * 静岡県興産金庫
- * 株式会社 錦
- * 日本生命保険相互会
社
- * フグツク
- * F・G・Sファク
ター合同会社
- * 株式会社 KQ情報
- * ダイオーペーパーコ
ンバーティング株式會社

公務員

- *大槌町役場
- *つくば市役所
- *警視庁
- *新潟市役所
- *静岡県庁
- *名古屋入国管理局
- *安芸市役所
- *富崎県警察本部

「学生による授業アンケート」の結果から

授業で学んだことを発展させよう

FD委員会委員長 福田誠治



本学では、学生による授業評価アンケートを2003年度より続け、8年が経過した。2009年度からは演習科目も加えてよいことになり、対象科目数は一挙に増えている。教員別実施率は、2009年度前期、後期、2010年度前期、後期の順に記載すれば、専任教員では54.2、68.0、54.4、57.7%、非常勤講師では58.5、57.1、50.0、56.3%と推移している。

平均値だけで文大生の像を描くと、授業には比較的良好出席して、予習・復習はあまりしない。授業履修にはかなり満足していて、取り立てて授業への注文はないが、授業内容の理解は十分ではなく、授業をさらに発展させて学びたいという思いも控え目である、というようになる。

例年掲載しているデータを分析すると(表1)、全体の傾向では、「あなたはこの授業によく出席しましたか」という項目にもっとも高い値が出ている。一番低い値は、「予習、復習あるいは授業内容を理解する努力をしましたか」という項目である。この

落差は、これまでと同じ傾向だが、授業をする教員側にも授業を選択した学生側にも考えるべき問題があると思われる。

これを授業形態別に見ると、出席状況はどの形態でも前期に比べて後期の方が悪くなっているがその変化は4%ほどと小さい。よく出席したと答える受講生が55%あるので、出席に対して強く努力している者が過半数あるとみなせる。逆に、出席が8割以下だと自覚している者は、受講生の4%程度しかない。

出席に関する項目を学年別に並べてみると1年生前期は4.65、後期は4.42、2年生前期は4.34、後期は4.19、3年生前期は4.26、後期は4.08と、3年生前期に少し回復するもののどんどん落ちていく。ついには、4年生になると、前期で3.83と4を切ってしまい、後期になっても3.87とそれほど回復しない。また、強く出席しようと努力した者の割合は、1年生は75.9%であるが、学年を追うにつれて57.8、51.5、33.0と減少していく(表3)。

前期の出席について学科別に見ると、初等教育学科4.48、国文学科4.25、英文学科4.42、社会学科現代社会学専攻4.35、環境・コミュニティ創造専攻4.37、比較文化学科4.31となっている(表2)。また、強く出席しようと努力した者の割合は、初等教育学科が最も高く66.3%、次に英文学科で62.2、続いて現代社会学専攻60.1、比較文化学科56.5、環境コミュニティ創造専攻55.9、国文学科52.9となる(表3)。

予習・復習あるいは授業内容を発展させるための努力をしたかという問は、きわめて低い評価になっている。この項目で、強くそう思う者は17%、そう思わない者は25%ある。極端な言い方をすれば、授業に前向きに取り組む積極的な学びをしている受講生は2割弱にすぎず、授業に出てただけでほぼ何もしない受講生が全体の4分の1もあることになる(表3)。

この項目を学科別に見ると、最も予習・復習と発展学習の努力をする値が高いのは英文学科

表1 授業形態別に見た各項目の平均値

		全 体		講義科目		演 習		外国語科目		実習実験実技	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
1	あなたはこの授業によく出席しましたか。80%程度を「普通」とする。	4.38	4.21	4.36	4.18	4.46	4.31	4.34	4.15	4.53	4.37
2	授業に出席したときには、授業に集中し、授業内容を理解する努力をしましたか。	4.09	4.11	3.99	4.00	4.42	4.32	4.23	4.22	4.64	4.58
3	授業中以外の時間に、予習・復習あるいは授業内容を発展させるための努力をしましたか。	3.15	3.20	3.02	3.06	3.62	3.64	3.73	3.58	3.42	3.53
4	授業の内容をよく理解できましたか。	3.80	3.87	3.72	3.78	4.05	4.13	3.82	3.85	4.37	4.31
5	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.04	4.14	3.98	4.06	4.24	4.31	4.05	4.11	4.52	4.55
6	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.04	4.15	3.97	4.07	4.26	4.29	4.12	4.21	4.49	4.52
7	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.09	4.19	4.09	4.18	4.15	4.27	4.06	4.13	4.08	4.24
8	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.93	4.03	3.85	3.84	4.16	4.22	4.02	4.09	4.41	4.46
9	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.07	4.16	4.01	4.10	4.23	4.27	4.10	4.17	4.52	4.55
10	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.05	4.14	4.01	4.08	4.16	4.32	4.04	4.08	4.36	4.45
11	授業の目的、内容・構成は、シラバスなどで事前に示されたものに沿っていましたか。	4.10	4.14	4.06	4.08	4.26	4.28	4.11	4.13	4.42	4.43
12	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。	4.01	4.07	3.96	4.02	4.06	4.20	3.98	4.02	4.39	4.39
13	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.13	4.20	4.09	4.15	4.25	4.37	4.07	4.16	4.51	4.52
14	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.08	4.16	4.06	4.12	4.14	4.36	3.96	4.05	4.32	4.38
15	この分野あるいは取り扱われたテーマをさらに勉強していきたいと思いませんか。	3.82	3.89	3.77	3.83	3.87	4.06	3.95	3.98	4.08	4.08
16	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いませんか。	4.15	4.24	4.09	4.16	4.32	4.42	4.21	4.27	4.57	4.58

表 2 学科・コース別に見た各項目の平均値

		初等教育		国文		英文		現代社会		環コミ		比文	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
1	あなたはこの授業によく出席しましたか。80%程度を「普通」とする。	4.48	4.35	4.25	4.02	4.42	4.21	4.35	4.34	4.37	4.23	4.31	4.05
2	授業に出席したときには、授業に集中し、授業内容を理解する努力をしましたか。	4.18	4.28	3.99	4.03	4.13	4.11	3.97	3.98	4.02	4.06	4.12	4.07
3	授業中以外の時間に、予習・復習あるいは授業内容を発展させるための努力をしましたか。	3.18	3.32	3.02	3.09	3.37	3.28	3.05	3.10	3.16	3.21	3.03	3.11
4	授業の内容をよく理解できましたか。	3.86	3.97	3.70	3.79	3.87	3.90	3.73	3.76	3.80	3.91	3.76	3.82
5	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.04	4.15	4.02	4.13	4.08	4.16	3.96	4.02	4.04	4.21	4.10	4.15
6	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.03	4.16	4.05	4.15	4.11	4.19	3.93	3.98	3.99	4.20	4.08	4.19
7	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.07	4.18	4.09	4.21	4.14	4.25	3.97	4.03	4.08	4.21	4.17	4.26
8	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.94	4.04	3.80	4.02	3.96	4.09	3.82	3.91	3.95	4.08	3.96	4.03
9	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.06	4.17	4.02	4.15	4.10	4.18	4.05	4.06	4.10	4.25	4.13	4.19
10	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.04	4.14	4.00	4.14	4.10	4.16	3.94	4.00	4.03	4.14	4.16	4.22
11	授業の目的、内容・構成は、シラバスなどで事前に示されたものに沿っていましたか。	4.09	4.15	4.08	4.18	4.15	4.16	4.02	3.98	4.07	4.14	4.16	4.17
12	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。	4.01	4.10	3.99	4.05	4.02	4.11	3.95	3.96	4.00	4.14	4.03	4.08
13	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.17	4.25	4.05	4.16	4.17	4.21	4.03	4.10	4.12	4.19	4.20	4.25
14	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.13	4.19	3.97	4.13	4.10	4.17	3.98	4.03	4.09	4.18	4.19	4.23
15	この分野あるいは取り扱われたテーマをさらに勉強していきたいと思いませんか。	3.89	3.96	3.62	3.74	3.92	3.99	3.74	3.79	3.82	3.90	3.89	3.92
16	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いませんか。	4.16	4.24	4.09	4.23	4.20	4.27	4.06	4.13	4.16	4.23	4.23	4.30

表 3 授業評価の平均値とその評価分布および前期の値の学年別・学科別特徴

		全学年 評価	強く 思う%	前期で強く思う%(5段階中の5)										思わ ない(1,2)
				1年	2年	3年	4年	初教	国文	英文	現社	環コ	比文	
1	あなたはこの授業によく出席しましたか。80%程度を「普通」とする。	4.29	55.19	75.9	57.6	51.5	33.0	66.3	52.9	62.2	60.1	55.9	56.5	4.26
2	授業に出席したときには、授業に集中し、授業内容を理解する努力をしましたか。	4.10	40.58	43.3	38.9	36.2	42.3	45.5	34.6	42.1	34.2	35.7	41.0	3.49
3	授業中以外の時間に、予習・復習あるいは授業内容を発展させるための努力をしましたか。	3.18	16.83	17.2	16.9	14.3	16.4	19.9	11.5	20.8	13.4	15.6	13.5	24.90
4	授業の内容をよく理解できましたか。	3.84	28.76	29.1	27.0	25.9	31.8	34.0	22.0	29.8	25.7	27.1	24.1	7.03
5	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.09	44.42	44.5	40.4	42.5	45.4	44.8	41.8	43.8	38.1	40.9	43.4	6.12
6	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.10	46.43	45.9	42.4	44.5	48.6	45.9	44.8	45.7	40.3	40.1	46.3	6.91
7	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.14	46.76	45.1	42.5	44.7	50.4	46.1	43.6	46.0	39.2	41.9	47.0	4.55
8	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.98	39.64	39.8	35.5	36.7	40.5	40.9	35.8	38.0	32.8	36.2	38.6	6.87
9	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.12	44.77	45.2	39.9	42.7	47.2	44.4	41.6	43.3	41.2	42.1	43.9	4.69
10	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.10	44.34	43.0	39.3	42.8	50.9	44.6	40.3	43.5	37.1	40.2	45.5	5.66
11	授業の目的、内容・構成は、シラバスなどで事前に示されたものに沿っていましたか。	4.12	43.08	43.4	38.3	42.1	49.8	43.1	40.9	44.5	37.1	39.1	43.3	2.35
12	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。「最も適切」をYes、「最も不適切」Noとして答えて下さい。	4.04	41.12	42.6	35.9	40.9	45.4	43.8	37.2	39.6	37.7	39.9	40.5	4.84
13	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを習得できましたか。	4.17	45.90	44.9	41.4	16.4	50.1	48.8	39.5	46.5	39.7	41.4	46.6	3.90
14	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.12	44.43	43.6	39.5	43.4	49.7	47.1	36.5	43.4	37.7	41.1	46.9	4.56
15	この分野あるいは取り扱われたテーマをさらに勉強していきたいと思いませんか。	3.86	35.24	32.9	32.8	35.6	38.1	38.3	26.4	37.7	30.9	32.0	35.4	8.76
16	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いませんか。	4.20	49.93	49.8	44.6	48.3	54.8	50.2	44.5	50.2	44.1	46.6	50.8	4.40

で、続いて初等教育学科、社会
学科環境・コミュニティ創造専
攻、現代社会専攻の順になって
いる。比較文化学科と国文学科
は値が低い(表2)。

この項目を授業形態で見ると、
評価の高いのは外国語科目で、
演習、実験・実習・実技と続き、
講義科目は最も低い値になって
いる(表1)。大学設置基準の定
義では、講義のように半期で2
単位という科目は、授業時間の
2倍の授業外学習時間が前提と
なっており、建前と実態は大き
くかけ離れている。

他と比べ、若干少ない値にな
っているのは、「授業の内容をよく
理解できましたか」「この分野
あるいは取り扱われたテーマを
さらに勉強していきたいと思
いませんか」という二つの項目
である。

強くそう思うと答えた受講生
の数から、授業内容を理解でき
たと納得する受講生が29%、
授業の内容でさらに勉強してい
きたいという展望をつかんだ受
講生は35%となっている。逆
に、授業で習ったテーマでさら
に勉強したくはないと考える受

講生は10%近くあり、不本意
な受講の様子もうかがえる(表
3)。

この原因は、各学科のカリ
キュラムないし授業が受講生
のニーズや理解水準にマッチし
ていないか、あるいは受講生に
感動を与え学びを刺激するよ
うな授業になっていないか、そ
れとも受講生側の学習意欲に
問題があるか、それらがミックス
した実情になっているか、な
どと考えられる。今年からカリ
キュラム改訂作業に入るので、
これを機に適切な対応が望ま
れる。

講演会だより

国文学科・大学院国文学専攻共催講演会

国文学研究の意味を問う

赤間 亮先生

「国文学研究とデジタルアーカイブ
—世界中の資料を共有化する—」

平成23年6月15日、本学2号館101教室において、国文学科・大学院国文学専攻共催の講演会が開催された。

講師は立命館大学教授の赤間亮氏。専門は歌舞伎研究。ことに役者絵研究をベースとする情報学においては世界のトップランナーといえる。赤間氏の名は、国内よりも海外で有名なことは、識者の一致する評価である。

日本の絵画資料、ことに浮世絵や絵入り本の多くが海外に流出していることは有名な

ARC（アートリサーチセンター）の研究事業は、初年度から現在にいたるおよそ十年の間、その援助をうけ続けている。毎年、1億5千万円ほどの研究補助金が赤間氏の推進する事業に投じられているのだが、この一事をもってしても、現代における意味は了解できる。

今回の講演は、赤間氏が推進する事業の概要説明を基調としつつ、デジタルアーカイブの世界をいかに構築していくのかが提言された。

そのディテールは紙面の都合もあって述べえないが、そこに国文学的な基礎力がいかに必要であるのかが、具体的に説明された。資料の真贋をみきわめる専門知識のない図録に存在意義はまったくないが、デジタルアーカイブの世界においても同様の

ようである。

役者絵の摺りを検証する技術（光のあてかた）、および義経伝説を画一化してきた明治以降の教育の問題などが、さりげなく指摘されていた。

内容は多彩で刺激的であるものの、さすがに近世文学研究の徒。抽象論や人生訓などはまったくなく、資料に即しながら淡々と国文学研究の存在意義が説かれていった。その論旨は明晰で、さわやかですらあった。

個人的な感想をいうと、教え子の成長を実感するとともに、「世界中の資料を共有化する」という高邁な精神に拍手喝采。

立命館大学のARCにアクセスして、諸資料を閲覧されんことをおすすめするものである。

（国文学科教授 楠元六男）



会場の様子

ことである。研究上のこの障害は、赤間氏の努力によりいまや解消されつつあるのではないか。

文部科学省は、日本の大学の研究レベルをあげるべく、諸分野における最先端研究の援助のためにCOEを設けた。赤間氏が推進する立命館大学

講師紹介

赤間 亮（あかま・りょう）

勤務先および職・立命館大学教授

立命館大学アート・リサーチ・センターを運営して、初年度のCOEを文部省よりうける。国文学研究とデジタルアーカイブの概念を合成した活動は注目される。もっとも斬新な研究分野を開拓中。

学歴・都留文科大学文学部国文学科卒業、早稲田大学大学院演劇学専攻の博士課程を修了。早稲田大学助手を経て、立命館大学に奉職。

文大だより

図書館 図書館から始めよう だより ー図書館ガイダンス続行中ー

いつも図書館を利用してくださいましてありがとうございます。図書館はいつでも利用してくださる皆さんの強い味方になれたらと思っています。

ところが、図書館に行ってみただけで、自分が読みたい本が結局どこにあるか分からずに、ネットサーフィンだけして出てきた。雑誌だけパラパラと見て出てきてしまった。このような経験をお持ちではないでしょうか。

そのように困っている方々にお薦めなのが、《図書館ガイダンス》です。



ガイダンスを受けるたくさんの学生

図書館では《図書館ガイダンス》の中で、段階的に、①図書館ツアー・②ガイダンス基礎編③ガイダンス研究編とステップアップして、図書館の使い方から課題・レポート等の文献の探し方、最終的には「卒業論文」制作にかかわる文献の収集方法をわかりやすく説明しています。

①図書館ツアーは、主には1年生（新入学生）向けのガイダンスです。各階にどのような資料や設備があるのかを案内します。また図書館が所蔵している資料の探し方を、実際に蔵書検索機を使って行います。

②ガイダンス基礎編は、授業で出された課題についてレポートを作成する時に、基本的な情報源として使用する国内のデータベース、データベースの役割と利用方法を説明します。

①と②は、1年生の時期に是非参加して頂きたい。これらガイダンスの中では特に《情報リテラシー教育》を含んでいるからなのです。では

《情報リテラシー教育》とは何かという。

第一に、自分が必要とする情報を数多ある情報の中から効率的に認識できる力を養うこと。第二に、数多ある情報に対して、批判的に冷静に評価しながら収集できる力を養うこと。第三に、収集した情報を管理し、新たな考え方や理解を成果として創り出す力を養うこと。第四に、創り出した成果を社会に有効的に伝達する力を養うことなのです。

これらガイダンス①、②、情報リテラシー教育を統合して、3年生・4年生向けに用意されているのが、ガイダンス研究編です。

③ガイダンス研究編は、《卒業研究》のための知識、方法を習得します。個人の学習経験などに合わせて、個別に必要な情報を得るための能力を習得するための方法を説明いたします。

4年間の限りある学生生活の中で、利用して下さる皆さんがいかに図書館を有効に使いこなしていただけるのか、どのように情報を収集選択し、理解し、分析管理し、評価しながら成果物を創り出し、それがその先の社会生活に繋げて行く力を習得していただけるかが、本学の図書館力といえるのではないかと思います。

新年度は始まったばかりです。始まりの一步が大切です。その一步を図書館から始めてみませんか。



ガイダンスをする日向先生



スクリーンを使用して分かりやすく説明

文大だより

第42回つる子どもまつり開催

5月15日(日)に、本学を会場として42回目の「つる子どもまつり」が開催され、幼児から小学生まで市内の多くの子どもたちが集まり、本学学生とともに大いに楽しみました。当日は、地域市民のボランティア団体や学生サークルなどが、子どもたちを対象に神楽実演鑑賞会、影絵遊び、工作などの体験イベントに取り組みました。午前中は各教室等において「らくがきのくに」、「あそびのくに」、

「エコのくに」など全14種類の「くに」が企画され、子どもたちはゲームや様々な体験などに挑戦していました。お昼には、本部棟東側広場において、吹奏楽部などによる演奏・芝居等を楽しみながら、参加者は美味しそうに持参したお弁当を食べました。その後、午後からはグラウンドをいっぱいを使用して、玉入れなどのゲームが行われました。子どもたちは各チームに分かれ、より多くの玉を目標に入れる方法を考え、チームの仲間と協力・工夫しながら玉入れを楽しみました。そして、みんなで大きな輪になってダンスを踊り、最後にマス



上手につくれました

コットキャラクターのサザビーを囲んで記念撮影を行い、来年の再会を約束しました。

今年は穏やかな天候にも恵まれ、スケジュール通りに無事開催されましたが、少子化の影響のためか年々参加者数が減少傾向にあるようです。本学の学生が中心となって実施する伝統のあるイベントとして、今後も地域貢献の一環として、また、子どもたちにとってよりよい地域づくりが進むように、長く引き継がれていくことが期待されます。



サザビー（マスコットキャラクター）を囲んでの集合写真

学長表彰制度による表彰

平成22年度の学術研究活動等において、特に顕著な業績を挙げたと認められるなど活躍した学生又は団体に対する学長表彰制度により、川崎葵（日本学生陸上競技個人選手権大会100mハードル 優勝）、萩原知佐（第32回全国国公立大学空手道選手権大会女子個人 形の部 優勝）、高村一帆（4年間、自主的な防犯団体の委員として活動し、大学の防犯対策に貢献）、合唱団（第63回全日本合唱コンクール全国大会 金賞）、近世資料文書研究会（「甲州俳諧展－奥の細道を辿った甲斐俳人－」を開催し地域に貢献）の3名及び2団体が表彰されました。



学長表彰者

文大だより

模擬面接試験体験会

5月7日に本学において、教員を目指す学生を対象とした模擬面接試験体験会が開催され、約140名の学生が参加しまし



第2部の教室での集団討論の様子

た。この体験会では、本学の同窓生に全国各地より参集いただき、面接官の役割を担っていただきました。体験会は2部制となっており、第1部では、9名の代表学生が登壇し、3名の面接官に対して本番さながらの受答えを行いました。また、代表学生による模擬授業も行われ、その後の講評においては、様々な指摘を受けるなど、きめ細かい指導が行われました。第2

部では教室に分かれ、集団討論や各地域の採用状況並びに教員採用試験におけるアドバイスなどの指導が行われました。



第1部の模擬面接試験体験会の様子

面接官及び学生がともに真剣に取り組み、今後の採用試験に向けて良い刺激となりました。

人事異動

平成23年4月1日付けの人事異動は次のとおりです。
氏名の前が異動先、()内は前職です。

採用

初等教育学科講師 平 和香子
国文学科准教授 長瀬由美
英文学科准教授 ハイミッシュ・ギリズ
社会学科准教授 黒崎 剛
比較文化学科准教授 水野光朗
初等教育学科特任教授 酒巻洋一
英文学科特任教授 松土 清
総務課図書館担当主査 小林啓子
学生課保健センターカウンセラー 箭本佳己
総務課図書館担当主事 廣瀬 洋
総務課財務会計担当主事 佐藤絵美
学生課教職担当主事 志村麻奈美
学生課教務担当主事 高野裕介

転入

学生課主幹 三枝美保子(市立病院事務局副主幹)／
総務課主幹 市川元子(税務課副主幹)／総務課副主査 奈良健三(学びのまちづくり課主任)／総務課副主査 小俣昌寛(政策形成課副主査)

転出

税務課長 志村元康(総務課経営企画室副室長)／
健康推進課主幹 深澤祥邦(総務課副主幹)／学びのまちづくり課副主幹 外川恵子(学生課副主幹)／基盤整備課主査 横瀬晴紀(学生課副主査)／市民生活課副主査 相川京子(政策形成課副主査)／税務課主事 石原優一(総務課主事)

昇任

初等教育学科教授 鳥原正敏(初等教育学科准教授)／
社会学科准教授 村上研一(社会学科講師)／総務課課長補佐 藤本信夫(総務課主幹)／総務課主幹 宇佐美千里(総務課副主幹)／学生課主幹 柴田純子(学生課副主幹)／総務課副主幹 高山竜一(総務課主査)／総務課主査 久保田宏美(総務課副主査)／学生課副主査 有賀ひとみ(学生課主任)

退職

山本安夫(初等教育学科教授)
吉住典子(初等教育学科准教授)
加藤静子(国文学科教授)
濱谷ピアソンエロイス(英文学科教授)
小林啓子(総務課主査)
箭本佳己(学生課カウンセラー)

お詫びと訂正

都留文科大学報第115号に掲載した卒業論文一覧・比較文化学科に誤りがございましたので、訂正するとともにお詫び申し上げます。

正 誤 表

卒業論文一覧・比較文化学科

		正	誤
岸清香ゼミ	29 頁	加藤あゆみ SUSHI ブームと日本人 ―「東京・元気寿司 DINING BAR」の成立と展開―	加藤あゆみ SUSHI ブームと日本人 ―「東京・元気寿司 DINING BAR」 成立と展開―
	30 頁	萬屋 歩 新田杏里 言語とジェンダー ―ことばの中の性差はなくなるか―	萬屋 渉 新田杏里 「草食男子」・ジェンダー
分田順子ゼミ	30 頁	望月裕可 紛争地の子どもの権利を守るには ―北部ウガンダ紛争における子ども兵問題から考察する―	望月裕可 紛争地の子どもの権利を守るには 北部ウガンダ紛争における子ども兵問題から考察する

編集後記

3.11 に起きたこと

平林祐子

3月11日午後2時46分、社会学科では2号館3階で定例の学科会議の最中でした。

最初ゆれ始めた時は、報告中だった方も無視して話を進めていらっしゃいましたが、これは大きいとわかり、全員がグラウンドへ避難しました。持っていたスマホでウェブ上を探し、東北中心の地震であることなどがわかりました。いちばん情報が早かったのはTwitterでした。

その後学内にいた人々はみな、学内で比較的安全な建物であるという図書館に集まり、しばらくそこにいましたが、停電し、電話もつながりなくなり、電車も止まったようだとの情報もあり、家族等との連絡が取れず、パニックとは行かないまでも不安が広がりました。被害状況を確認するた

め2号館に戻って6階の研究室に行くと、棚の本が大量に落ちて床は足の踏み場もなく、デスクは脚が一本折れて崩れ落ち、デスク上にあったPCや書類や本がぐしゃっと折り重なっていました。

手のつけようもなく、余震も続いていたので必要なものだけ回収して、車で東京の自宅まで帰ろうと決めて外に出ました。当然渋滞も予想されましたが、子どもが心配だからどうしても帰りたいという方々等が同乗することになり、5人で車で都留を出ました。おそらく5時ごろであったと思います。都留ICから中央道に乗ると、徐々に渋滞しはじめ、上野原の手前でもう全く動かなくなりました。けっきょく上野原からUターンせざるを得ませんでした。真っ暗な中、やっとの思いで図書館にたどり着き、一夜を過ごすことになります。

4時か5時ごろ目覚めると、停電でTVがダウンしているなか、PCでネットの中継サイトUstreamを見ることができ、思った以上の大惨事であることが漸くわかりました。福島第一原発が冷却できていない、という非常事態であることも知りました。

ついにこの日が来てしまった、もしかしたら明日、自分は生きていないかも知れない、と真剣に思いながら、最初に動いた電車で帰京の途につきました。

あの日から何ができたのだろう。今から何ができるのだろう。どう生きていくのだろう。

私たちの模索はずっと続いています。



当日の附属図書館の様子

オープンキャンパス

夏季オープンキャンパス

平成23年7月23日(土)

午前9時～午後3時

【主な内容】

大学概要説明会／学科別説明会／学科別特別講義／卒業後の進路と就職状況の説明／留学制度説明会／教職員及び学生による進学相談／学生生活相談／キャンパスツアー／学食体験／体育会、文化会等の活動紹介 など

秋季オープンキャンパス

平成23年10月17日(月)～28日(金) (水曜・土曜・日曜を除く)

午前9時10分～午後4時20分

【主な内容】

公開授業体験／キャンパスツアー／進学相談 など

【申込方法】

本学HPもしくはFAXにより申込みください。
受付開始(専用HP開設)は、夏季・秋季ともに開催日1ヶ月前を予定しています。

【問合せ先】

総務課 総務企画担当
0554-43-4341 (内線210)



本 ぶんだい堂



都留文科大学国文学科／編
2011年3月
勉誠出版 12,000円＋税

◇都留文科大学

都留文科大学国文学科五十周年記念論文集
文科の継承と展開